

# Q14 支援の緊急性を把握し、それに応じた対応をしていくためには？



まずはここから

- 支援の必要性を見極めるためのチェック表を作成します。
- チェック表のポイントにより、支援体制を手厚くします。

どの学校にも、支援を必要としている子どもがたくさんいます。ニーズに応じた支援のために、校内体制をどの程度機能させて対応していくかを決定する目安として、チェック表を活用し、客観的に判断している学校があります。

## A 小学校の「支援の必要度チェック表」(チエさん・小2)

必要度の視点	3ポイント	2ポイント	1ポイント
① 保護者の意向	■非常に心配	□心配	□あまり心配していない
② 学年会の意向	■早急に支援を	□できれば支援を	□いずれ支援を
③ 困難さの継続期間	□6ヶ月以上	■1ヶ月～5ヶ月	□1ヶ月未満
④ 学年への配慮		□6年・1年	■4年・2年

〔④ 学年への配慮のポイント〕 6年時に中学進学, 1年時に入学後の不安があるため, 2ポイント。  
4年及び2年時に次年度学級編成替えの不安があるため, 1ポイント。

例えば, 4月から7月までの間, 集団生活になじめないでいるチエさんの場合, 「支援の必要度チェック表」は上のようになりました。その結果, チエさんの合計ポイントは, 各項目のポイントを合計して, 9ポイントとなりました。

## 「支援の基本形式表」から支援体制の決定

支援体制	必要度のポイント		
	10~12P	7~9P	6P以下
① 小委員会を編成しての支援	○		
② 個別支援(学習・生活等) *1	○	○	
③ 校内職員のアドバイス *2	○	○	○
④ 学年職員による支援	○	○	○
支援の基本形式	A	B	C

〔\*1:校内の専科教員及び加配教員等が学級に入り, 個別に支援を行う。  
\*2:コーディネーター及び助言可能な校内職員が担任へのアドバイスをを行う。〕

チエさんの場合は, 9ポイントなので, 支援の基本形式はB(②から④まで)となります。それに対して, 保護者や学年会は, A形式(①から④まで)を要望しました。これらの条件を総合的に判断して, 校内委員会では小委員会も組織しての支援(A形式)を行うことにしました。



**【キーポイント】** チェック表は, あくまでも「素早く・客観的に・形式を決める」ための一つの方法です。最終的には, 保護者及び担任や学年会の意向も踏まえて, その時点で活用可能な人的資源を支援に充てていきます。